

## 「2011年度グッドデザイン賞」を受賞 生産者と消費者が直接つながる関係性を実直にデザイン オーガニック茶畑のオーナー制度「UMEZUKI 梅月」に高い評価を獲得

弊社が、ブランディングから運営まで関わり、タツミ茶園（奈良県 月ヶ瀬）さんと共に手がけている「オーガニック茶畑のオーナー制度 | UMEZUKI 梅月」が、このたび公益財団法人 日本デザイン振興会が主催する「2011年度グッドデザイン賞」(G マーク)を受賞しました。

本オーナー制度は東日本大震災以前から行っておりますが、今回日本の農業がこの様なカタチでクローズアップされる事になり、豊かさや幸せについても私たちは今まで築きあげてきた 価値観を見直す機会になりました。

「消費者が生産者を出資を通じて支えるモデルを複雑な仕組みを用いることなく実現できている。生産者と消費者と直接つながる関係性を実直にデザインしようとしている姿勢に好感もてる。(※審査委員による評価コメント引用)」という農業のブランディングの側面、そして従来の「パッケージングされたモノを売る」発想から茶畑を軸にした、「農家との関係と体験」にフォーカスした点が高く評価されました。

グッドデザイン賞は、「くらしを、社会を、豊かにしうるのか」という視点で評価されます。見た目を判断するだけではなく、「本質のデザイン」という意味で今回受賞出来た事は大変光栄に思います。今後も私たちは、消費だけでは終わらない新しい価値の創出に努力を惜しみません。

なお、本年度グッドデザイン賞授賞式は、11月9日(水)に東京ミッドタウン・ホール(東京都港区)で開催される予定です。

### 本プレスリリースに関連する URL

2011年度グッドデザイン賞『審査講評』	<a href="http://www.g-mark.org/archive/2011/judges/u14.html">http://www.g-mark.org/archive/2011/judges/u14.html</a>
2011年度グッドデザイン賞『受賞対象の概要』	<a href="http://www.g-mark.org/award/detail.html?id=38146">http://www.g-mark.org/award/detail.html?id=38146</a>
弊社WEBサイト『ブランディング事例紹介』	<a href="http://www.hi-culture.com/archive/umezuki/">http://www.hi-culture.com/archive/umezuki/</a>
弊社BLOG『グッドなデザインを受賞した理由』	<a href="http://blog.hi-culture.com/2011/10/03.html">http://blog.hi-culture.com/2011/10/03.html</a>
UMEZUKI 梅月 公式ページ	<a href="http://www.umezuki.jp/">http://www.umezuki.jp/</a>

### グッドデザイン賞とは GOOD DESIGN

「グッドデザイン賞 (G マーク)」は、1957年に通商産業省によって設立された「グッドデザイン商品選定制度」を継承し、1998年より財団法人日本産業デザイン振興会の主催事業として運営される、日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度です。これまで50年以上にわたって新しい時代の文化と生活を創造することを目的に「より豊かなライフスタイル」と「良いビジネス」を導く運動として展開され、のべ受賞件数は38,000件以上にのぼり、今日では国内外の多くの企業や団体が参加しています。また、グッドデザイン賞受賞のシンボルである「G マーク」はすぐれたデザインを示す象徴として広く一般に親しまれています。



UMEZUKI

# オーガニック茶畑の オーナー制度ってなんだろう？

**オーナー制度は消費者と生産者を直接つなぎ、これからの日本の農業、そして風景を支えていくとてもシンプルな仕組みです。**

こんにちは。タツミ茶園2代目 巽直弥です。オーガニック茶に関わりはじめて5年が経ちました。当初は無肥料・無農薬のお茶をつくることそのものに意義を感じていましたが、やり進めて行くうちに「お茶を“商品”として買っていただくだけでは、意味が無いのではないか？」と疑問を感じはじめました。お茶を購入する人がお茶の栽培から参加できて、僕たち農家と直接つながる関係。これからの日本の農業、そして風景も支えていく関係。それがオーナー制度です。

# あたらしい農業のかたち。あたらしい消費のかたち。



普段私たちが口にしていてモノ。  
誰がどこで作っているんだろう？

実は生産者でさえ自分たちが作った農作物がどのような形で届き、販売されているのか、知るすべもありません。今、消費者は安全な農作物に感心を高めています。普段口にするお茶なら尚更ですね。生産者が出来ること。それは私たち生産者の顔を見せる安心のイメージ作りではなく、消費者と直接つながる関係です。

農薬肥料にさようなら。

工業製品としてお茶を売る時代から、より安全で美味しく、生産者と消費者が直接繋がるお茶へ。収穫量の安定のためや、お茶をより青く見せるためにこれまで使用していた大量の農薬・肥料に決別をし、新たな時代のお茶の栽培に一步踏み出しています。

茶畑のオーナー。  
それは日本の風景のオーナー。

茶畑のオーナーになることは、私たち日本の四季に富んだ風景のオーナーになるということです。山や川や森、畑などの美しい景観の中で、人と自然がどのように折り合いをつけ、これからの日本の風景がどうあるべきかを、私たち農家と共に考えある良い機会になればと思います。

年に6回、合計1,500g。旬のお茶をお届けします。

					
<b>新茶</b> 5月下旬 新茶を語らずして在来種のオーガニック茶畑は語れません。余韻に花の香りがあります。年々その香りが高まるのをイメージしています。	<b>梅雨番</b> 6月初旬 梅雨番ってあまり馴染みのないお茶ですが、新茶の一番茶と夏の二番茶の間に整枝で収穫して出来たお茶です。荒々しくも、クリアな喉越しをお楽しみ下さい。	<b>ほうじ茶</b> 7月初旬 正直、こんななめらかなほうじ茶初めてです。喉を、スルッ、スルッと滑るように流れていきます。身体は悦び、汗が出ます。水出し茶でも大変美味しくいただけます。	<b>二番茶</b> 7月中旬 最初に口に広がる優しい甘み、そして舌の奥ですずくと留まる渋みは正に『夏のお茶』を感じさせます。在来種らしいクセもあり最初は違和感がありますが、かならず病みつきになります。	<b>秋摘み番茶</b> 10月初旬 夏の猛暑をもってもビックともしない。夏に耐えエネルギーを溜め込んだ秋。その上品な甘さと、艶っぽい口当たりが、心を奪います。	<b>紅茶</b> 10月中旬 月ヶ瀬健康茶園とのコラボレーションでお送りする、タツミ茶園初の紅茶。まだその味と香りは誰も知りません。オーナー様の舌でお確かめください。



## オーナー様 特典

1. 月2回オーナーメールマガジンをお届けします。
2. 収穫時期には茶摘みを体験していただけます。
3. 年に6回同じ茶畑で採れたお茶を楽しんでいただけます。
4. 在来種という自然の織り成す気候、風土、土壌などその土地でしか再現できない味を堪能できます。
5. 収穫した茶葉だけで製茶する  
ノンブレンドならではの個性豊かなお茶を楽しめます。
6. 農業を支えている社会意義、満足感を感じられます。
7. 上記のお茶以外にも月ヶ瀬園連お楽しみセットをお送りします。
8. 茶畑の様子を映像で配信します。(機材調整中)

## オーナー費用・お支払い方法

オーナー契約費用：月額1,800円(税込)×12ヶ月(発送費込み)  
お支払方法：銀行振込・郵便振替・クレジット  
お支払いは12ヶ月分一括となります。  
内容により、メール便・宅急便と発送方法を対応させていただきます。

**お申し込み・お問い合わせは  
www.umezuki.jpにアクセス**

Twitter、FaceBookでも情報更新中！  @umezuki\_jp  umezuki



UMEZUKI



## オーガニック茶畑のオーナー制度 タツミ茶園 梅月のオーガニック茶畑「キトロデ」について

文) タツミ茶園 2代目 巽直弥

オーナー制度で収穫するオーガニック茶畑の畑の名前は、「キトロデ」と言います。何故だか分からないけれど、昔からそう言い伝えられています。この畑は長年いろんな農家が受け継いできました。そしていつの間にか見渡すとまわりの農家は老齢。「タツミさん。次頼むよ！」このようなオファーは、いくら採算があわなくてもNOとは言いません。

キトロデは樹齢45年。僕が引き継いでからは、農薬と肥料を一切断ちました。一般的な茶樹は30年で植替えが目安ですが、在来種 ※1 の場合その生命力は桁違いです。知る限りでは100年を超えるものもあります。キトロデもまだまだこれからです。

※1 在来種とは自然交配によって自然に育った茶の品種です。土に種を巻くところから始まり、芽を出し、根を張り、厳しい自然に耐えながら、その土地に合ったカタチで育っていきます。収穫量や均一性に欠け経営上農家には不人気の品種ですが、消費者の嗜好やライフスタイルが多様化する中で、業界の8割を占めるやぶきた品種一辺倒だけでは、品質の画一化や栽培・製造面などに多くの問題が生じています。キトロデ在来種は大量生産、消費時代を経て甦ろうとしています。